

公的支援を活用する為の獲得戦略 情報収集と発想の転換を重視せよ

物価の高騰や医師の働き方改革による人手不足で、経営環境が悪化している医療機関は少なくないと言われる。深刻化する少子化の他、技術革新やデジタル化に対応する為の経営基盤強化が進まず苦慮している病院経営者も多いだろう。そうした時に頼りになるのが、国や自治体による補助金や助成金等の支援だが、どのような制度が有るのか分からず、申請も煩雑で中々支援を受けられないといった声も聞かれる。7月23日の「日本の医療の未来を考える会」では、経済産業省出身の内閣官房参与である間宮淑夫氏に、大学や病院に対する補助金等の公的支援を獲得するにはどうすれば良いのか、情報収集の方法や獲得に向けての戦略等について講演して頂いた。



内閣官房参与（地方経済活性化担当）間宮 淑夫氏

挨拶



三ッ林 裕巳氏「日本の医療の未来を考える会」最高顧問（元内閣府副大臣、医師）

私も大学病院で医療に従事した経験がありますが、大学病院は診療や研究、教育を担い、地域の医療機関に医師を派遣する役割があります。現在、特定機能病院に承認されれば、診療報酬の加算等の措置が受けられますが、大学病院が地域の医療を支え、研究成果で世界をリードしていく為には、補助金の支出等で国が支援していく事も必要だと思います。



東 国幹氏「日本の医療の未来を考える会」国会議員団代表（衆議院議員、財務大臣政務官）

参議院選挙が終わったばかりで、政界は連日目まぐるしく状況が動いています。しかし、年度末の予算編成に
続きを読むには購読が必要です
ばならないのは、言うまでもありません。今、全国から医療関係の皆さんを始め、政策課題の指摘や要望が寄せられています。こうした声に応えられる政治を実現出来るよう励んで参ります。



詳しくはホームページをご覧ください